

2013 年度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

対象部局	経済学研究科
評価基準 8	社会連携・社会貢献
点検・評価項目(2)	8-2 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
評価の視点	教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動
	学外組織との連携協力による教育研究の推進
	地域交流・国際交流事業への積極的参加
点検・評価項目(3)	8-3 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

II 【点検・評価項目ごとの現状説明】

8-2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済学研究科が定める教育研究上の目的に沿った大学院教育を実施することにより、より質の高い有為な人材を社会に送り出すことによって社会へ貢献している。</li> <li>・経済学研究科が実施する経済シンポジウム、講演会等は、すべて公開で行われており、学内者・学外者を問わず自由に参加することができる。ポスター、チラシをはじめ、ホームページ上において広報している。</li> <li>・学外の研究機関・団体等と定期的に、恒常的に連携協力して教育研究活動を展開している実績はない。ただし、単発の活動として他機関・団体等から講師を招聘して経済セミナー等を実施することは、ほぼ毎年行っている。</li> <li>・経済学研究科が中心となって実施している地域交流事業はない。個々の教員が自らの教育・研究活動の実践として行っているものはある。</li> <li>・経済学研究科が単独で実施している国際交流事業は、現在は特になし。経済研究所等と共同で開催した国際シンポジウム、海外の研究者等を招聘して実施した講演会、経済セミナー等および個々の教員が中心となって行っている国際交流活動はある。経済学研究科を挙げての国際交流事業は、諸事情により最近行っていない。</li> </ul>
8-3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済学研究科の社会連携・社会貢献の適切性について、定期的な検証は行われていない。もし、これらの事項について定期的な検証を行うとすれば、特にそのための組織等は設置されておらず、また明文化された規定等も存在しないので、現状では経済学研究科委員長主導の下に、経済学研究科委員会で企画し、経済学専攻主任が中心となって、実施することになる。</li> </ul>

【効果が上がっている事項】

8-2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済学研究科の通訳論研究および研究指導については、社会から高く評価されており、グローバルビジネス社会で通訳のスペシャリストとして活躍する人材を多数輩出している。</li> </ul>
8-3	<ul style="list-style-type: none"> <li>近い将来大学院改革が実行されると思われるので、その帰趨を勘案しながら、必要な整備を行うことになるが、当面は現状維持に努める。</li> </ul>

【改善すべき事項】

8-2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学外の研究機関・団体等との連携協力による定期的・恒常的な教育研究活動を推進する。</li> </ul>
8-3	

III 本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

経済シンポジウム、講演会、経済セミナー等の開催要項・案内など 「通訳論研究指導」の修了者で通訳を職業または業務として仕事し、活躍している人の名簿（※ただし、可能な場合。）
--

【2014 年度からの達成目標】

【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標	目標達成の指標となるもの	評価				
		2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014～2018)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学外の研究機関・団体等との連携協力による定期的・恒常的な教育研究活動を促進する。</li> </ul>	→				
14 年度 目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>学内外に広く開放して実施している講演会等を引き続き開催する。</li> </ul>	→				